

現代住宅の平面構成に関する研究

第4報 全国嗜好調査・概要

○正会員 岡 俊江 同 青木 正夫 同 竹下 輝和 同 友清 貴和 同 磯貝 道義
同 宮崎 信行 同 河野 洋子 同 末広 香織 同 藤田 由美 同 本山 浩司

[1] はじめに

本研究はこれまで、多様化しているといわれる現代住宅の平面構成の実態を明らかにするために、中流住宅の平面構成の史的考察の成果をもとにして、接客空間とだんらん空間の構成に着目して平面の類型化を行ってきた。即ち、現在、全国で供給されている独立住宅は、以下のような傾向がみられる。

1. 収集プランの86%が接客室を有しており、その99%が座敷である(図4-1)。
2. 座敷を形態別にみると、62%が続き間座敷である。
3. 続き間座敷の玄関から座敷へのアクセスは、次の間を経ないで、直接、座敷に至る座敷直入り型である「転用続き間座敷」が大部分を占めている。
4. 住宅規模が増大するほど座敷を有する割合は高くなり、延べ床面積70㎡、総室数4室、1階室数2室をこえれば9割前後のプランが座敷を有している。この傾向は全国的に共通しており、地域的な差異はみられない(図4-2、4-3、4-4)。
5. 各地域ブロックとも、一定規模(延べ床面積100㎡)に達すると平面類型13タイプのうち4タイプに集中する傾向がある。

ところで、以上のような供給プランの実態に対して、住み手の側は、接客空間確保に関して如何なる要求をもっているのか、即ち、座敷は必要か否か、その形態は続き間座敷か一つ間座敷か等を明らかにすることは今後の住宅平面計画上の指針を得るために意義のあることと考える。本報以下3報は、住み手の接客空間の構成に対する要求をモデルプランに対する好みという形でとらえ、全国的な規模で、住み手の嗜好の実態を明らかにした上で、地域ブロック別に、供給されているプランの実態と嗜好の差異の有無を明らかにすることを目的としている。

[2] モデルプランの作製

供給されているプランの実態を踏まえて、以下の手順でモデルプランを作製した。

現代住宅の平面類型13タイプから抽出した典型4タイプ、続き間座敷の①、②、⑥と一つ間座敷の⑨を基本とした。これにだんらん室の和・洋の別と、供給プランで地域的に顕著な傾向のみみられた近畿地方に多い2階座敷と、北海道に集中していたいわゆる居間中心型のプランを加えて8種類とした。以上のいずれも座

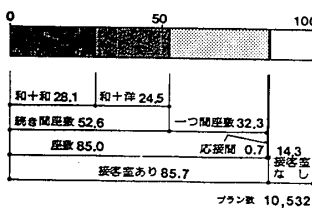


図4-1 接客室のとられ方(全国)

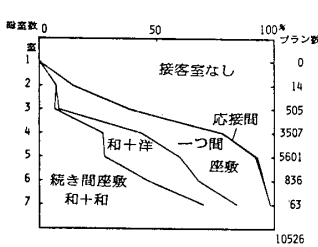


図4-3 総室数と接客室のとられ方

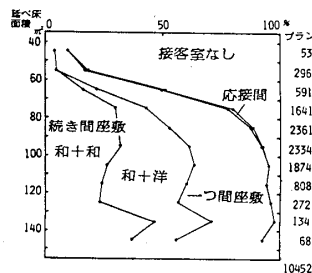


図4-2 延べ床面積と接客室のとられ方

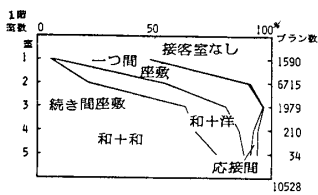


図4-4 1階室数と接客室のとられ方

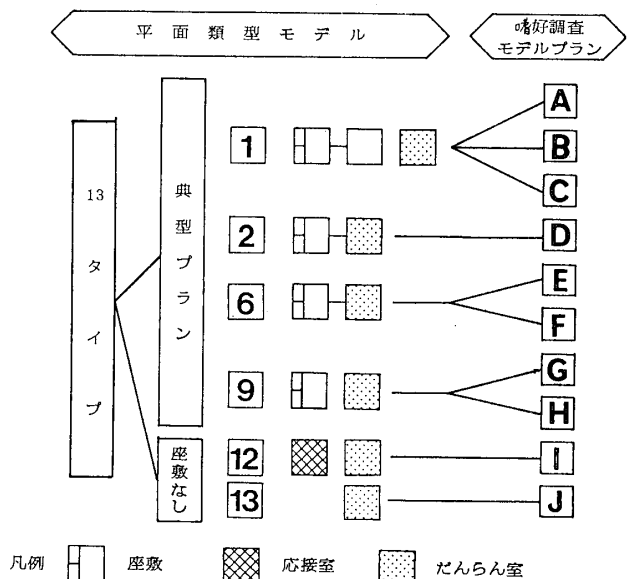


図4-5 モデルプランの作製

敷を備えたプランと対照的な座敷のない2タイプ、9
10をあわせて、AからJの10種類のモデルプランを作
製した(図4-5, 5-1)。

3 調査の方法と概要

全国的に組織された団体の協力を得て、46都道府県
(秋田県を除く) ; 87か所の会員にアンケート票を
配布し、郵送によって回収した。

調査時期 1984年2月初めと3月中旬の2回に分けて発送

1984年8月まで 到着分について集計

アンケート票配布数 10250票 有効回答票数 3070票

調査対象 子どものある主婦、年齢は33~42才が中心

主婦の職業は無職が7割、配偶者(夫)の職

業は専門的・技術的職業が2割、管理的職業が2割

4 調査対象の属性からみた嗜好プランの傾向

本報告は、住み手の嗜好プランの傾向を全国的な規
模で概観した後、地域ブロックの単位で分析・考察を
進める。そこでまず、調査対象者の属性による嗜好の
差異の有無を検討する。

図5-1に示す10種類のモデルプランの中から1つ
だけ好みのプランを選ぶ質問に対する回答を、家族構
成の相違に着目してみると、図4-6、4-7に示す
ように、主婦の年齢階層別及び子どもの人数別の嗜好
プランには、顕著な差異は認められない。同居する老
人(祖父母)の有無の別では、老人のいる家族の方が
A、C、Dの和室2室の続き間座敷を選ぶ割合がやや
高く、和洋2室の続き間座敷の嗜好がやや低い。割合
として2~5%の差であり、顕著な差異があるとはい
い難い。従って、家族構成の相違による嗜好の差異は
みられないといえる。

次に、現住宅の室数規模別の嗜好プランでは、6室
以上(DKを除く)の比較的大規模な住宅居住者に、続
き間座敷Aを選んだ割合がやや高く、5%程度ある。
これも顕著な差異とはいえず、又、室数規模の大きな
住宅居住者は、地方都市に多く、敷地等立地条件を反
映していると考えられるので、地域ブロック別に分析
する場合は、問題はないと考える。

他に、主婦の職業と配偶者(夫)の職業別にも嗜好
の傾向をみたが、差異はみられなかった。

以上の如く、主婦の属性による嗜好の差異は認めら
れなかったため、次報以下では、有効回収票のすべて
を対象として分析・考察した。

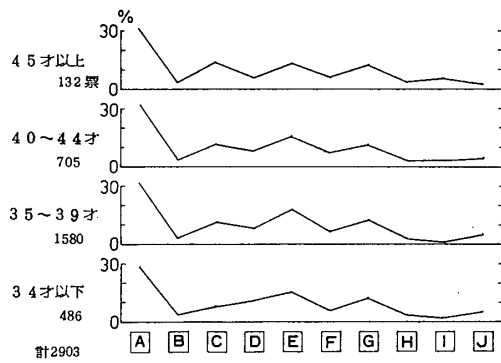


図4-6 主婦の年齢階層別嗜好プラン

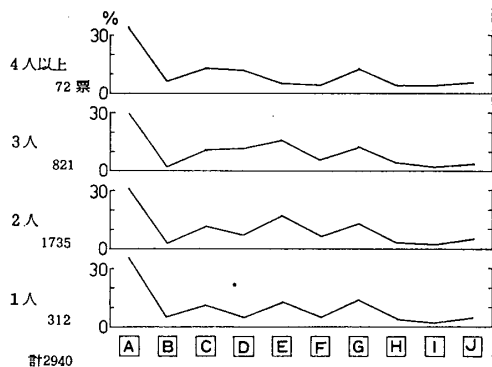


図4-7 子どもの人数別嗜好プラン

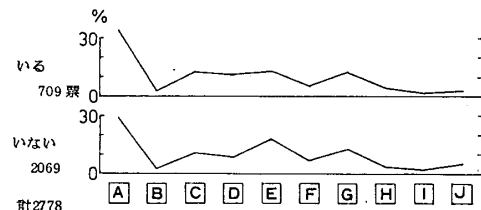


図4-8 同居する老人の有無別嗜好プラン

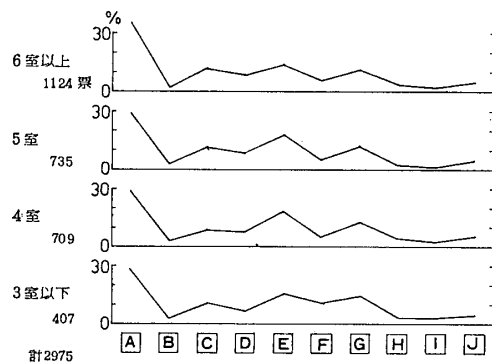


図4-9 現住宅の室数別嗜好プラン

- 注) ※1 「中流住宅の平面構成に関する研究(1)」青木正夫他
住宅建築研究所報 No.10 1984年
※2 「現代住宅の平面構成に関する研究・第1報~第3報」
青木正夫他 日本建築学会大会要覧 5070~5072
1984年10月
※3 「現代住宅の平面構成に関する研究・第2報」
青木正夫他 日本建築学会九州支部研究報告第28号
1985年3月
※4 「中流住宅の平面構成に関する研究(2)」青木正夫他
住宅建築研究所報 No.11 1985年